

《論文》

## 2007年度シーズンにおける流通経済大学ラグビー部の 公式戦ゲーム様相

伊藤 武, 黒岩 純, 上野 裕一, 内山 達二, 松尾 勝博,  
荒川 崇, 大中 哲宏, 上原 陵

### RKU Rugby Football League Match Analysis 2007

Takeshi ITO, Jun KUROIWA, Yuichi UENO, Tatsuji UCHIYAMA, Katsuhiko MATSUO,  
Takashi ARAKAWA, Tetsuhiro ONAKA, Ryo UEHARA

キーワード：ラグビー, ゲーム分析, ゲーム様相

Keywords:

#### 【諸言】

2006年度シーズンにおける本学ラグビー部の公式戦のゲーム様相を2007年スポーツ健康科学部開校記念論文集にて報告した<sup>10)</sup>。本研究は、それに続く2007年シーズンにおいて同様のゲーム様相について分析したものである。

毎年、シーズンを向かえるにあたり、幾つかのチーム目標を設定する。2007年シーズンにおいては、2006年シーズンの分析結果をもとに目標を設定した。したがって本研究の分析結果は、目標に対する評価の指標のひとつといえる。また年度毎に同様のゲーム様相について評価を続けることで、チームの成長を客観的に捉えることにも役立つ。この評価内容をコーチ・プレイヤーの共通認識とすることでコーチングをより効果的にするとともに、競技力の向上に貢献するものであるとも考えられる。

今回、2007年シーズン優勝チームである東海大学ラグビー部の協力を得て、幾つかも項目において比較を試みた。これは優勝チームとの比較を試みることで、本学ラグビー部がシーズン優勝を達成するために何が必要なのかを明らかにするものであると考えられる。

本研究は、昨年度の報告と同様の分析方法を用い、本学ラグビー部の2007年度リーグ戦でのゲームの結果を分析し、2006年度の本学の結果、2007年度東海大学の結果と比較検討することで、本学ラグビー部のゲームの様相を明らかにすることにした。

対象：分析対象のゲームは2007年度関東大学リーグ戦1部に所属する、K大学、東海大学、H大学、D大学、C大学、R大学、T大学との対戦ゲームであった。公式戦に出場した本学ラグビー部の選手は、合

計で29名、全て男子、年齢は19～24歳であった。

分析方法：対象ゲームはデジタルビデオカメラで全て撮影され、DVDに記録された。その映像はパソコンにキャプチャーされ、MPG形式に変換した後、ゲーム分析ソフトPower Analysis（スマイルワークス社製）を使用してデータベース化し、ゲームの評価、分析を行った。

分析項目：先行研究に基づき、試合結果（GAME RESULTS）、体格比、総得点と得点方法（SCORING PROFILES）、キック（KICKING）、トライ（TRIES）、セットプレイ（SETPLAY）、ペナルティー（PENALTIES）、カード提示（RED AND YELLOW CARDS ISSUED）が分析された。

また、2007年度優勝チームの東海大学、2006年度の本学を上記同様に分析し比較対照とした。

1. 2007年度リーグ戦1部勝敗表（GAME RESULTS）
2. 総得点と得点方法（SCORING PROFILES）
  - 2-1. リーグ戦全体での全得点
  - 2-2. リーグ戦での平均得点
  - 2-3. リーグ戦における1TRY得失所要時間
3. キック（KICKING）
  - 3-1. キック成功率
  - 3-2. 地域別にみたキック成功率
4. トライ（TRIES）
  - 4-1. トライ数
  - 4-2. トライ起点

- 4-3. トライ起点エリア
- 4-4. トライへの軌跡
- 4-5. トライまでのパス回数
- 4-6. トライまでの所要時間
- 4-7. 得点の時間帯
5. セットプレイ（SETPLAY）
  - 5-1. ラインアウトの1試合平均回数
  - 5-2. ラインアウトの再獲得回数
  - 5-3. スクラムの1試合平均回数
  - 5-4. スクラムの再獲得回数
  - 5-5. キックオフの1試合平均回数
  - 5-6. キックオフの再獲得率
6. ペナルティー（PENALTIES）
  - 6-1. 流通経済大学7試合合計反則回数
  - 6-2. 1試合平均反則回数
  - 6-3. 7試合合計反則回数
  - 6-4. ペナルティーの分類
7. カード提示（RED AND YELLOW CARDS ISSUED）

## 1. GAME RESULTS

### 1-1. 2007年度リーグ戦1部勝敗表

2007年度のリーグ戦の結果は、以下に示す通りであった。本学ラグビー部の成績は1勝1分5敗で第7位であった。（表1）

## 2. SCORING PROFILES

### 2-1. リーグ戦全体での全得点

2007年度リーグ戦における本学の全得点は81点であった。2006年度リーグ戦における全得点は93点（日本大学との試合が無くなり全6試合）であった。2007年度リーグ戦における東海

大学の全得点は291点であった。2007年度は2006年度の本学との全得点と比較すると12点減少し、東海大学に比べ210点の差がある結果となった。本学の試合での得点は減少傾向にあり、TRY：Conversion：PG（得点比）得点の比率の中ではTRYが13%減少し、Conversionの比率（3%）、PGの比率（16%）増加した結果となった。

東海大学の得点比率はTRY、Conversionが高く、PGでの得点は5%と低い値を示した。（表2）（表3）

### 2-2. 平均得点

7試合の平均得点は41点（±30.99）であった。2007年度リーグ戦における1試合の合計得点は、2006年度と比較して2点、東海大学と比較して8点の差があった。

2007年度リーグ戦	41点
2006年度リーグ戦	43点
2007年度東海大学リーグ戦	49点

（表4）

表1. 2007年度リーグ戦1部勝敗表

順位	チーム	勝点	勝数	分数	負数	T	G	PG	DG	得点	失点	点差
1	東海大学	25	6	0	1	43	29	5	1	291	62	229
2	K大学	24	6	0	1	37	27	0	0	239	82	157
3	T大学	19	4	0	3	28	23	7	0	207	240	-33
4	H大学	19	4	0	3	16	12	7	0	125	154	-29
5	D大学	16	3	0	4	13	6	7	0	98	167	-69
6	C大学	14	2	1	4	15	10	2	0	101	163	-62
7	流通経済大	11	1	1	5	11	4	6	0	81	204	-123
8	R大学	10	1	0	6	10	6	3	1	74	133	-59

【順位決定方式】

リーグ戦の順位決定は勝ち点制で、勝ち：4点、引き分け：2点、負け：1点、棄権：0点。

勝ち点同数の場合は(1)直接対決で勝利を収めてるチーム、(2)直接対決を通じてトライ数が多いチーム、(3)全試合を通じて得失点差が多いチーム、(4)全試合を通じてトライ数が多いチームの順で順位を決める。

3校が同じ勝ち点で並んだ場合は(1)当該3校間で勝利チーム、(2)当該3校の対戦での得失点差が多いチーム、(3)当該3校の対戦でのトライ数が多いチーム、(4)全試合を通じて得失点差が多いチーム、(5)全試合を通じてトライ数が多いチームの順で順位を決める。

表2. 流通経済大学2007年度リーグ戦と、2006年リーグ戦、東海大学2007年度リーグ戦との得点比

2007年度リーグ戦 (全7試合)		2006年度リーグ戦 (全6試合)		東海大学2007年度 リーグ戦(全7試合)	
合計得点	81	合計得点	93	合計得点	291
TRY (得点/数)	55/11	TRY (得点/数)	75/15	TRY (得点/数)	215/43
CG (得点/数)	8/4	CG (得点/数)	12/6	CG (得点/数)	58/29
PG (得点/数)	18/6	PG (得点/数)	6/2	PG (得点/数)	15/5
DG (得点/数)	0/0	DG (得点/数)	0/0	DG (得点/数)	3/1
TRY/CG/PG (得点比)	68:10:22	TRY/CG/PG (得点比)	81:13:6	TRY/CG/PG (得点比)	75:20:5

表 3. 2007年度リーグ戦の平均得失点

- ・ TRIES - Most in one game 13 TRIES 【流通経済大学 vs T大学】
- ・ TRIES - Least in one game 1 TRIES 【流通経済大学 vs D大学】
- ・ PENALTY GOALS - most in one game 3 PG 【5 試合】
- ・ PENALTY GOALS - least in one game 0 PG 【10試合】

Team	平均得点
東海大学	41.6
K大学	34
T大学	30
H大学	18
D大学	14
C大学	14
流通経済大学	11.6
R大学	11

Team	平均失点
T大学	34
流通経済大学	29.1
D大学	24
C大学	23
H大学	22
R大学	19
K大学	12
東海大学	8.9

2006年度リーグ戦の平均得失点

Team	平均得点
K大学	43.4
東海大学	38.6
H大学	32.2
D大学	23.9
C大学	16.2
流通経済大学	15.5
R大学	15.3
N大学	9

Team	平均失点
N大学	47.7
R大学	41.5
C大学	30
流通経済大学	27.5
D大学	25.1
H大学	24.5
東海大学	16.3
K大学	9.9

表 4. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 2007年度東海大学リーグ戦の得点結果

2007年度	東海	K大学	T大学	H大学	D大学	C大学	R大学	1 試合平均得点
流通経済大学	8-31	9-73	24-62	5-8	6-8	10-10	19-12	
総得点	39	82	86	13	14	20	31	1 試合平均得点
2006年度	東海	K大学	H大学	D大学	C大学	R大学	/	43
流通経済大学	5-47	3-29	19-37	15-17	20-16	31-19		49
総得点	52	32	56	32	36	50		
2007年度	流通	K大学	T大学	H大学	D大学	C大学	R大学	1 試合平均得点
東海大学	31-8	21-22	64-3	51-12	48-8	50-3	17-6	
総得点	39	43	67	63	56	53	23	

## 2007年度リーグ戦における得点差

最大得点差 64

(流通経済大学 9 対 K大学 73)

最少得点差 0

(流通経済大学 10 対 C大学 10)

## 2006年度リーグ戦における得点差

最大得点差 42

(流通経済大学 5 対 東海大学 47)

最少得点差 2

(流通経済大学 15 対 D大学 17)

## 2-3. リーグ戦全チームにおける1TRY得失所要時間

2007年度リーグ戦における本学の1試合でTRYを獲得するまでの所要時間は7分16秒と8チーム中7番目, 東海大学は1分52秒と1番目という結果となった。8チーム全体の平均では4分50秒となった。

また2007年度リーグ戦における本学の1試合でのTRYを喪失するまでの所要時間は2分40秒と8チーム中2番目, 東海大学は10分00秒と8

番目の結果となった。8チーム全体の平均では2分40秒となった。{1試合80分として}(表5)

### 3. KICKING

#### 3-1. キック成功率

2007年度本学のリーグ戦キック成功率は以下に示す通りであった。コンバージョンゴールの成功率では昨年同様低い値を示したが、ペナルティーゴールの成功率は100%と完璧な値を示した。(※東海大学比較対象外)

2007年度リーグ戦 (7試合)

- a. Conversion 36% (11回中4回成功)
- b. Penalty Goal 100% (6回中6回成功)
- c. Drop Goal 0% (0回)

2007年度リーグ戦 (6試合)

- a. Conversion 40% (15回中6回成功)
- b. Penalty Goal 50% (4回中2回成功)
- c. Drop Goal 0% (0回)

#### 3-2. 地域別にみたキック成功率

本学のキッカーは2人起用(右利き, 左利き)し, コンバージョンゴールとペナルティーゴールを合わせた成功率は右サイドからは20%,

中央からは100%, 左サイドからは67%であった。2006年度同様, 右サイドからの成功率は低い値であった。(図1)(図2)

### 4. TRIES

#### 4-1. トライ数

本学のリーグ戦全7試合でのトライは11であった。

#### 4-2. トライ起点

2007年度7試合11トライのうち, トライが発生した起点はマイボールラインアウトとマイボールスクラムが全体の73%を占めた。2006年度同様セットプレイを起点としたトライが多い。(表6)

#### 4-3. トライ起点エリア

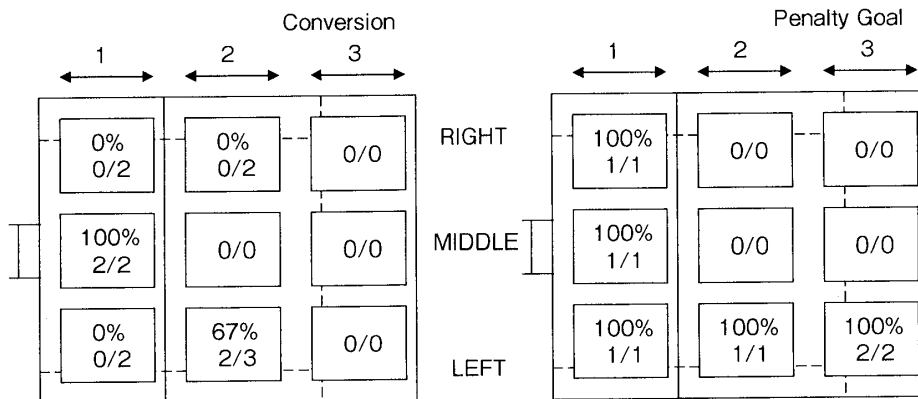
2007年度の本学は, 相手陣全エリアでの起点が91%と高い値を示し, 相手ゴールラインから相手5mのエリアでのトライが45%と最も高い値を示した。2006年度では敵陣22以内起点でのトライが80%を示したのに対し2007年度の本学は相手陣全エリアからトライが発生した。

東海大学は, 自陣22m以内のエリア以外から

表5. 2007年度リーグ戦の1TRY得失所要時間

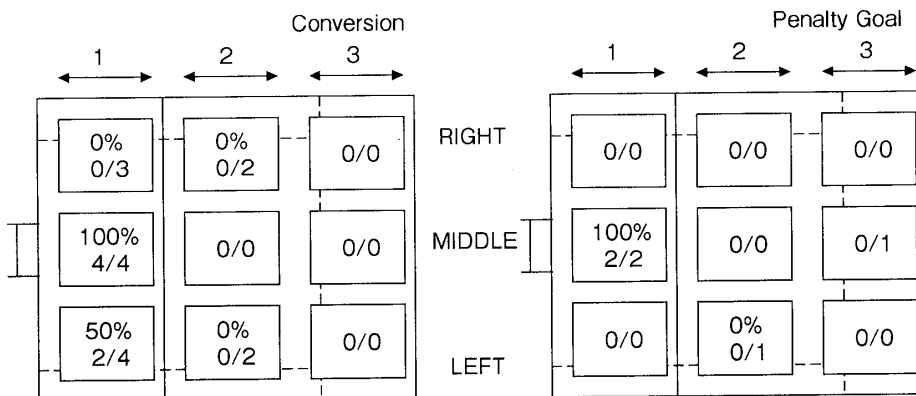
Team	合計TRY数	1TRY獲るまでの所要時間
東海大学	43	1分52秒
K大学	37	2分10秒
T大学	28	2分51秒
H大学	16	5分00秒
C大学	15	5分20秒
D大学	13	6分09秒
流通経済大学	11	7分16秒
R大学	10	8分00秒

Team	合計被TRY数	1TRY獲られるまでの所要時間
T大学	36	2分13秒
流通経済大学	30	2分40秒
C大学	23	3分28秒
D大学	23	3分28秒
H大学	22	3分38秒
R大学	20	4分00秒
K大学	10	8分00秒
東海大学	8	10分



地域	LEFT			MIDDLE			RIGHT		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
G/PG数	3	4	2	3	0	0	3	2	0
成功数	2	3	2	3	0	0	1	0	0
成功率	67%	75%	100%	100%			33%	0%	

図1. 2007年度リーグ戦における地域別にみたキック成功率



地域	LEFT			MIDDLE			RIGHT		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
G/PG数	4	3	0	6	0	1	3	2	0
成功数	2	0	0	6	0	0	0	0	0
成功率	50%	0%		100%		0%	0%	0%	

図2. 2006年度リーグ戦における地域別にみたキック成功率

表6. 流通経済大学2007年度リーグ戦トライ起点と、2006年度リーグ戦トライ起点、2007年度東海大学のトライ起点との比較

	2007 流通経済大学	2006 流通経済大学	2007 東海大学
MYスクラム	2 (18%)	3 (20%)	8 (19%)
MYラインアウト	6 (55%)	10 (67%)	19 (44%)
MYPK, FK	1 (9%)	2 (13%)	3 (7%)
キック処理カウンター	1 (9%)	-	4 (9%)
相手ハンドリングエラー	-	-	4 (9%)
タックルターンオーバー	1 (9%)	-	5 (12%)

98%のトライが発生しており、グラウンドの全エリアから平均的にトライが発生している。(表7)

#### 4-4. トライへの軌跡

2007年度本学のトライまでの最短攻撃次数は1次、最長攻撃次数は18次とトライまでの攻撃次数となった。2006年度の本学は3次攻撃までに9割のトライが発生していた。

2007年度東海大学は1次攻撃までに7割のトライが発生した。最短攻撃次数は0次、最少攻撃次数は8次までとなった。(表8)

#### 4-5. トライまでのパス回数

2007年度本学のトライまでのパス回数は3回

までに55%、5回までに82%のトライが発生した。2006年度も同様の値を示した。

2007年度東海大学のトライまでのパス回数は1回までに71%という値を示した。(表9)

#### 4-6. トライまでの所要時間

2007年度本学のトライまでの所要時間は31秒以上でのトライが63%と多い結果となった。2006年度本学のトライまでの所要時間は30秒以内でのトライが74%と、2007年度と2006年度では30秒を起点とすると、対照的な結果となった。

2007年度東海大学のトライまでの所要時間は、30秒以内でのトライが65%を占め、その中でも20秒から30秒の間(28%)が高い値となった。(表10)

表7. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるトライ起点エリア

	相G-相5	相5-相22	相22-HL	HL-自22	自22-自G	TOTAL
2007流通経済大学	5	1	4	-	1	11
割合	45%	9%	37%	-	9%	
2006流通経済大学	6	6	1	1	1	15
割合	40%	40%	6.7%	6.7%	6.7%	
2007東海大学	11	9	12	10	1	43
割合	26%	21%	28%	23%	2%	

表8. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるトライへの軌跡

	攻撃次数	0次	1次	2次	3次	4次	5次	6次	7次以上
2007流通経済大学	回数	1	2	1	2	2	1	-	2
	割合	9%	18%	9%	18%	18%	9%	-	18%
2006流通経済大学	回数	-	11	2	1	-	-	-	1
	割合	-	73%	13%	7%	-	-	-	7%
2007東海大学	回数	12	18	4	4	3	-	1	1
	割合	28%	42%	9%	9%	7%	-	2%	2%

表9. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるトライまでのパス回数

	パス回数	0	1	2	3	4	5	6	7以上
2007流通経済大学	回数	1	2	1	2	2	1	-	2
	割合	9%	19%	9%	18%	18%	9%	-	18%
2006流通経済大学	回数	6	2	-	1	2	-	1	3
	割合	40%	13%	-	7%	13%	-	7%	20%
2007東海大学	回数	12	18	4	4	3	-	1	1
	割合	28%	43%	9%	9%	7%	-	2%	2%

#### 4-7. 得点の時間帯

本学は後半にトライをする傾向があり、2006年度もほぼ同じ値を示した。

東海大学も後半にトライをする傾向があり本学とほぼ同じ値を示した。(表11)

8回            9.3回            11回

#### 5-6. キックオフの再獲得率

2007本学    2006本学    2007東海大学  
41%            38%            69%

(表12)

### 5. SET PLAY

#### 5-1. ラインアウトの1試合平均回数

2007本学    2006本学    2007東海大学  
33回            38回            29回

#### 5-2. ラインアウトの再獲得率

2007本学    2006本学    2007東海大学  
52%            56%            53%

#### 5-3. スクラムの1試合平均回数

2007本学    2006本学    2007東海大学  
20回            21回            18回

#### 5-4. スクラムの再獲得率

2007本学    2006本学    2007東海大学  
56%            44%            50%

#### 5-5. キックオフの1試合平均回数

2007本学    2006本学    2007東海大学

### 6. PENALTIES

#### 6-1. 2007年度流通経済大学

合計ペナルティー数52回  
合計フリーキック数0回

#### 2006年度流通経済大学

合計ペナルティー数67回  
合計フリーキック数1回

#### 2007年度東海大学

合計ペナルティー数63回  
合計フリーキック数2回

#### 6-2. 2007年度流通経済大学

1試合平均反則数            7回

#### 2006年度流通経済大学

1試合平均反則数            11.2回

#### 2007年度東海大学

表10. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるトライまでの所要時間

	所要時間	5秒以内	6-10秒	11-20秒	21-30秒	31-40秒	41-50秒	50秒以上
2007流通経済大学	回数	1	2	1	-	2	2	3
	割合	9%	18%	9%	-	18%	18%	27%
2006流通経済大学	回数	1	2	4	4	2	1	1
	割合	7%	13%	27%	13%	13%	7%	7%
2007東海大学	回数	1	6	12	9	9	2	4
	割合	2%	14%	28%	21%	21%	5%	9%

表11. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦における得点の時間帯

		前半	後半
2007 流通経済大学	TRY数	4	7
	割合	36%	64%
2006 流通経済大学	TRY数	5	10
	割合	33%	67%
2007 東海大学	TRY数	16	27
	割合	37%	63%



表12. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるセットプレイ成功率

2007年度リーグ戦 7 試合統計		成功	失敗	合計	成功率
ラインアウト (再獲得)	マイボール	92	31	123	75%
	相手ボール	27	80	107	25%
スクラム (再獲得)	マイボール	75	5	80	94%
	相手ボール	5	57	62	8%
キックオフ (再獲得)	マイボール	8	30	38	21%
	相手ボール	16	4	20	80%
2006年度リーグ戦 6 試合統計		成功	失敗	合計	成功率
ラインアウト (再獲得)	マイボール	93	21	114	82%
	相手ボール	28	74	102	28%
スクラム (再獲得)	マイボール	51	7	58	88%
	相手ボール	5	64	69	7%
キックオフ (再獲得)	マイボール	2	32	34	6%
	相手ボール	19	3	22	86%
2007年度東海大学 リーグ戦 7 試合統計		成功	失敗	合計	成功率
ラインアウト (再獲得)	マイボール	88	18	106	83%
	相手ボール	23	71	94	24%
スクラム (再獲得)	マイボール	53	2	55	96%
	相手ボール	10	62	72	14%
キックオフ (再獲得)	マイボール	3	20	23	13%
	相手ボール	48	3	51	94%

1 試合平均反則数 9.3回

た。(表13)

### 6-3. 2007年度流通経済大学

7 試合合計反則回数 139回

### 2006年度流通経済大学

6 試合合計反則回数 162回

### 2007年度東海大学

7 試合合計反則回数 144回

### 2007年度流通経済大学リーグ戦

1 試合平均反則回数 19.9回

### 2006年度流通経済大学リーグ戦

1 試合平均反則回数 27回

### 2007年度東海大学リーグ戦

1 試合平均反則 20.6回

### 6-4. ペナルティーの分類

2007年度本学の反則はラック, タックル周辺において高い値を示した。

2006年度も同様の値を示した。

2007年度東海大学の反則はラック, タックル周辺において高い値を示し

### 7. RED AND YELLOW CARDS ISSUED

2007年度流通経済大学7 試合中 2 試合カードを提示された。

I. レッドカード・・・0回

II. イエローカード・・・2回

(R 大学, H 大学戦)

III. カードの内訳・・・スタンピング, ラフプレイ

2006年度流通経済大学6 試合中 1 試合カードを提示された。

I. レッドカード・・・0回

II. イエローカード・・・1回

(D 大学戦)

III. カードの内訳・・・妨害プレイ

(\*東海大学比較対象外)

表13. 流通経済大学2007年度リーグ戦, 2006年度リーグ戦, 東海大学2007年度リーグ戦におけるペナルティーの内訳

反則名	ノットリリース	ラインオフサイド	ノットロールアウェイ	ハンド	オーバーザトップ
数	14	6	5	5	4
割合	27%	12%	10%	10%	8%
反則名	ゲートオフサイド	モールコラブシング	スクラムアングル	Not 10m	スクラムコラブシング
数	4	3	3	1	1
割合	8%	6%	6%	2%	2%
反則名	アーリータックル	スクラムフットアップ	Not 5m	その他	
数	1	1	1	3	
割合	2%	2%	2%	6%	

## 2006年度流通経済大学

反則名	オフサイド	ノットリリース	ラインオフサイド	オーバーザトップ
数	17	11	9	5
割合	25%	16%	13%	7%
反則名	スクラムコラブシング	ノットロールアウェイ	タックルオフサイド	スクイズプレイ
数	5	5	4	3
割合	7%	7%	6%	4%
反則名	アーリータックル	モールコラブシング	ピックアップ	オブストラクション
数	2	2	2	2
割合	3%	3%	3%	3%

## 2007年度東海大学

反則名	ノットリリース	ラインオフサイド	ノットロールアウェイ	ゲートオフサイド	オーバーザトップ
数	17	9	7	7	5
割合	27%	14%	10%	10%	8%
反則名	オブストラクション	ハンド	Not 10m	アーリータックル	L/O コラブシング
数	4	4	3	3	1
割合	6%	6%	5%	5%	2%
反則名	スクラムコラブシング	スクラムアングル	その他	アーリープッシュ	
数	1	1	2	1	
割合	2%	2%	3%	2%	

## 【考察】

2007年度リーグ戦分析の結果、本学ラグビー部と東海大学との間に顕著に差が現れたのが得失点の差である。ゲームに勝利するためには可能な限り得点を多く獲得し、失点を最小限に抑える必要がある。試合結果からみても、本年度1位の東海大学は総得点291点とリーグ内で最も高く、総失点は62点とリーグ内で最も低い。また1試合平均得失点でみると本学ラグビー部の得失点共に7番目という結果であった。1位の東海大学と本学の差は、平均得点で30点、平

均失点で20点であった。この得失点の差から優劣は特に得点力、失点の多さによって決定されると考えられた。得点についてみると、本年度は昨年度に比べても、12点低下した結果となった。昨年度はN大学の棄権により1試合少ない6試合であった点を考慮すると、さらに低下の傾向にあったことが認められる。1試合に換算した平均得点をみると、本年度は11.6/1試合、昨年度は15.5/1試合となっている。得点方法の割合からその低下分についてみると、トライは4減少、コンバージョンゴールは2減少、ペナルティーゴールは4増加、ドロップゴールは

変化なしという結果となった。失点の多さについてみると、本年度は昨年度に比べ39点増加した結果となった。以上のことから得点の低下は得点方法のトライ数が減少していることが原因といえる。この原因については、トライ起点、トライへの軌跡（攻撃回数）、トライまでのパス回数、トライまでの所要時間から本学と本年度1位だった東海大学との比較が出来る。トライ起点では73%がセットプレイ起点の本学に対し、東海大学は63%とセットプレイ以外の起点から得点パターンのバリエーションが多い。トライまでの軌跡では本学は3次攻撃以内が54%に対し東海大学は3次攻撃以内が88%、トライまでのパス回数では本学は1回までに28%に対し東海大学は1回までに71%、トライまでの所要時間では36%が30秒以内でのトライに対し東海大学は65%と、東海大学は短時間かつ様々なバリエーションがある結果となった。また1トライを獲る時間で比較すると、本学は約51分で1トライ獲得するのに対し東海大学は約13分で1トライ獲得する結果となった。1トライを失う時間で比較すると、本学は約20分で1トライ失うのに対し東海大学は約70分で1トライ失う結果となった。この結果から得点時間、失点時間に大幅な差があることがわかる。得点の時間帯については、本学と東海大学共に後半の割合が高かった。このことから本学の前半での戦い方について課題が残る結果となった。得点の時間帯については本学、2006年度本学、東海大学いずれも後半の得点の割合が高かった。このことから前半の戦い方について課題が残った。

キックについては得点回数またその成功率いずれも2006年度と比較して上昇傾向にあった。コンバージョンキックについては右サイドからの成功率が悪くキッカーの養成が必要である。

本年度セットプレイの獲得率については自チームがボールを投入する側となるマイボールではラインアウト75%、スクラム94%、キックオフ21%。ラインアウト、スクラムいずれも昨年度より低い値となった。セットプレイについて本学の獲得率をみると、自チームがボールの投入側となるマイボールではラインアウト75%、スクラム94%、キックオフ21%であった。2006年度の獲得率はラインアウト82%、スクラム88%、キックオフ6%であった。東海大学の獲得率をみるとラインアウト83%、スクラム96%、キックオフ13%であった。それぞれマイボール獲得率で比較すると、2006年度に比べて2007年度はラインアウト以外の獲得率が高くなった。本学と東海大学を比較するとキックオフの獲得率以外は東海大学の獲得率の方が高い結果となった。ペナルティーについては本学の回数（139回）と東海大学（144回）共にノットリリースザボールが全体の27%と高い割合を表す結果となった。2007年度反則回数は本学と東海大学を比較すると本学が5回少ない結果となった。反則の種類に着目すると、ノットリリース、ノットロールアウェイ、ハンド、ゲートオフサイド、オーバーザトップとラック・タックル周辺での反則が75%と高い割合を示した。このことからラック・タックル周辺でのプレイの改善が必要であるといえる。レフェリーのカード提示については、イエローカードの提示が昨年の1回に対して本年度は2回と、1回増える結果となりルールに則ったプレイの改善およびルールの理解をさせる必要があるといえる。

## 【結論】

・2007年度リーグ戦における本学ラグビー部の

得点力の低下はトライ数、コンバージョン数の減少が原因であった。またドロップゴールの数にも変化がない。

- ・失点が増加した。
- ・トライについて東海大学と比較すると(1)得点パターンのバリエーションが少ない, (2)トライまでに時間が掛かりすぎている, (3)前半にトライすることが少ない。
- ・キック得点率について, 右サイドからの得点率が低い。ドロップゴール数に変化がない。
- ・セットプレイについては, マイボールキックオフの獲得率は高くなったが, マイボールラインアウトの獲得率が昨年度より低くなった。
- ・反則についてはラック・タックル周辺でのプレイの改善の必要性がある。

#### 【参考文献】

- 1 上野裕一・木村季由 (1994) 日本ラグビープレイヤーのためのFITNESS TRAINING PROGRAMMEを考える (第二報) -JAPANの戦術思想とゲームの特徴. ラグビー科学研究 No.6. 29-49
- 2 黒岩純・伊藤武・上野裕一ほか (2006) 日本における女子ラグビーゲームの特徴. 日本フットボール学会4th Congress. 114.
- 3 椿原徹也・黒岩純ほか (2005) 2006WRWCアジア予選におけるゲームの様相. 日本フットボール学会3rd Congress. 33.
- 4 佐々木康・渡辺一郎・山本巧ほか (2004) ジャパンラグビートップリーグ2003年度ゲーム分析報告. ラグビー科学研究 VOL. 16. 71-73.
- 5 古川拓生ほか (2004) 第40回全国大学ラグビー選手権大会ゲーム分析報告. ラグビー科学研究VOL. 16. 67-69.
- 6 村上純・下園博信・勝田隆ほか (1999) パシフィッククリム選手権におけるゲーム様相の比較~98・99年の日本代表ゲームについて~. ラグビー科学研究VOL. 11. 64-91.
- 7 日本ラグビーフットボール協会・医科学委員会・トップリーグ分析班 (2006) ジャパンラグビー科学研究VOL. 18. 5-22.
- 8 IRB (2003) WRC2003STATISICAL REVIEW AND MATCH ANALYSIS. IRB Game Analysis RWC2003.
- 9 IRB Under19 World Championship (2006) STATICAL REVIEW AND MATCH ANALYSIS
- 10 伊藤武ほか (2006) 2006年度シーズンにおける流通経済大学ラグビー部の公式戦ゲーム様相. スポーツ健康科学部開校記念論文集